

コマツナ ベた掛け資材で害虫を防ぐ

コマツナは耐寒性があり、冬の寒さで特においしくなります。ビタミン類、カルシウム、鉄分を多く含む緑黄色野菜です。

【品種】

近年は葉が丸く、緑が濃い品種が好まれ、秋冬まきでは「はまつづき」（サカタのタネ）、「楽天」（タキイ種苗）、春夏まきでは「いなむら」（サカタのタネ）、「菜々音」（タキイ種苗）などが良いでしょう。

【栽培期間】

一般地ではほぼ周年栽培でき、草丈 20～25 cm を目標に、春まき（3～5 月）は 30～50 日、秋まき（9～11 月）は 30～60 日で収穫します。冬まき（12～2 月）は、トンネルやべた掛け資材で保温し、60～90 日で収穫できます。生育が早く収穫遅れになりやすいため、1 週間置きに少しずつまいて、長く収穫を楽しむのが良いでしょう。

【畑の準備】

種まき 2 週間前に 1 平方 m 当たり苦土石灰 100 g をまいて畑をよく耕し、1 週間前に化成肥料（NPK 各成分で 10%）100 g と堆肥 2～3 kg を施し、土とよく混ぜておきます。幅 90 cm の栽培床を作り、畝に直角に条間 15～20 cm の種まき溝を切ります。このとき、まき溝は支柱や木板を土に押し付け、溝を付けると深さが一定になります（図 1）。

【種まき】

種が重ならないように 1 cm くらいの間隔でまき、土を軽くかぶせておきます。種まき後はべた掛け資材を使い、乾燥や強い雨を防ぐと同時に害虫の予防にも有効です。被覆は収穫の 5～7 日前に取り除きます（図 2）。

【間引き】

初めは、本葉が見える頃に子葉の重なっている部分を間引きします。その後、葉が触れ合う程度に間引き、最後に 5～6 cm 程度の間隔にします。間引き後は株がぐらつくのを防ぐため、株元に土寄せします（図 3）。

【病虫害の防除】

生育期間が短いので、農薬の使用は生育初期に限ります。不織布のべた掛けやネット栽培によりアブラムシ、コナガなどの害虫の侵入を防ぎます。

【収穫】

草丈 20～25 cm 程度で根を付けて抜き取り収穫をします。収穫が遅れると葉が堅くなり、食味も落ちてしまいます。

図1 畑の準備

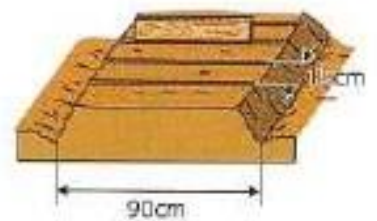


図2 種まき

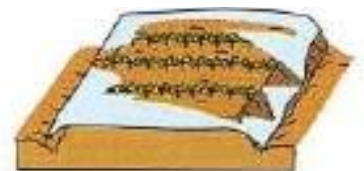


図3 間引き



(1) 子葉が重なる部分を間引く



5～6cm

(2) 草丈7～8cmのときに
5～6cm間隔に間引く